

JVETSが今後果たすべき役割 第3期評価報告書を中心に

2010年3月3日、JVETSシンポジウム

植田和弘(京都大学)、ueta@econ.kyoto-u.ac.jp

地球温暖化防止と排出量取引制度

- 京都議定書とCOP15
- 温室効果ガス25%削減(1990/2020)中期目標
- 地球温暖化防止と(経済的)手段・方法
- 排出量取引制度:理論・意義・実践・課題
- EU-ETSなど諸外国の経験と動向:評価と課題
- 国際炭素市場へ
- 自主参加型キャップ&トレード(2005)
- 排出量取引の国内統合市場の試行的実施

排出量取引制度をめぐる論点

- 制度の対象範囲
- 排出枠の適切な割当：総量、公平性、分配
- 排出枠の取引価格と安定性
- 投機的取引と取引価格の乱高下
- 排出枠の割当をめぐる訴訟
- 環境政策手段としての評価
- 環境効果、効率（静学と動学）、公平、国際競争力、リーケージ、グリーン・ニューディール：比較

国内排出量取引制度とは

- 国内排出量取引制度とは以下の要素で構成される
 - 制度でカバーする範囲全体としての排出目標の設定
 - 全体目標に整合する個別企業の排出目標（排出枠の割当）の設定
 - 目標達成の一手段としての排出枠の取引の実施
 - 制度基盤としての、排出量のモニタリング・算定・検証、登録簿等の整備

国内排出量取引制度に関して 試すべき事項

- 制度構築に向けて試すべき事項は以下と想定される
 - － 公平な目標設定(排出枠の割当)ができるか
 - － 信頼性のある排出量のモニタリング・算定・検証、登録簿等の仕組みがうまく機能するか
 - － 制度が実際に排出削減や技術開発につながっているか
 - － 取引が円滑に行われるか、それが効率的な排出削減に寄与するものであるか
 - － その他(国際競争力への影響、リーケージ、マネーゲーム回避)

JVETS及び試行排出量取引スキームが試している 事項①

1. 目標設定、排出枠割当方法

- 総量・事前交付のみのキャップ&トレードが主流。
- 各国・各地域の国内排出量取引制度を国際的にリンクするためのルール検討を行っている国際炭素行動パートナーシップ (ICAP) への参加条件も、総量目標の義務的キャップ&トレード制度を導入済みか導入予定。
- JVETSは総量目標・事前交付のキャップ&トレードであり、国際的に主流の方式を採用。
- 一方、試行スキームは、総量目標と原単位目標、事前交付と事後清算等の様々なオプションを認めているが、多くは事後清算方式を選択。

各種オプションの試行という観点から、参加者が
総量目標/原単位目標、事前交付/事後清算方式に
バランス良く集まることが重要

JVETS及び試行排出量取引スキームが試している 事項②

2. 排出枠の管理・取引

- JVETSは、登録簿システム、排出量管理システム、取引仲介システムなど、排出量取引制度実施に必要なインフラを既に整備し、運用している。過去二期、円滑な取引が行われ、これによりすべての参加者が目標を達成している。
- 試行排出量取引スキームにおいて、今後、目標達成確認システムなどのインフラを整備・検討していく際にも、JVETSのインフラを有効に活用していくことが考えられる。また、試行排出量取引スキームの現時点の参加者には、事後清算を選んだものが多いが、実際にどの程度の取引が発生するかどうかが注目される。

排出量取引が本来の機能を発揮するためには、円滑な取引のための制度設計や、インフラの整備が重要。

JVETS及び試行排出量取引スキームが試している 事項③

3. 排出量のモニタリング・算定・報告、検証

- 制度対象者間の公平性や、制度の信頼性の確保には、排出量のモニタリング・算定、検証ルールの一貫的適用が重要。
- JVETSでは、国内法体系との整合性を図りつつ、国際規格であるISOとの整合性も考慮し、国際的に通用するルールを整備し、4期にわたる実績を通じてノウハウを蓄積している。
- 一方、試行スキームは、自主行動計画参加企業においては業界ルールの適用が認められるなど、業種ごとにモニタリング・算定ルールが異なる可能性がある。検証も、排出枠を売却する者又は希望するものに限定されている。

排出量のモニタリング・算定、検証等のルールは排出量取引制度の要であり、一貫的なルールで行うことが重要。

JVETS第3期の結果について(1)

- 排出削減の実績:

- ①参加した61社の排出削減量は、基準年度排出量の23%に当たる382,625t-CO₂。これは、当初参加者が削減を約束していた量(基準年度排出量の82%)を大きく上回る。
- ②要因として、景気低迷による生産減をあげる参加者がみられた一方、運用改善によるエネルギー使用量の削減をあげる参加者も多かった。

JVETS第3期の結果について(2)

- 排出枠の取引の実績：取引件数は23件、取引量は34, 227t-CO₂、平均取引価格はt-CO₂当たり約800円。
- 制度インフラの運用実績：
 - ①排出量のモニタリング・算定・報告、検証のルールについては、第2期と比べ改善が見られているものの、事業者の負担を大幅に軽減するまでには至っていない。
 - ②JVETS登録簿システム等の電子システムについても、改善の余地を残している。

国内排出量取引制度：今後の課題

- 確実な排出総量削減を推進する手段
- 国際的動向と国内対応
- 解明すべき課題：国内排出量取引制度を本格導入する場合に必要な条件
- 解明すべき課題：制度設計上の課題
- 国際的なリーダーシップ：国際的な議論の場において「日本における経験」から「排出量取引制度のあり方」に関して言えることは何か